



0才のころ

赤ちゃんは  
1日中お母さんの顔を見ている。  
笑った顔で育つ心と。  
怒った顔で育つ心。  
きっと後で違ってくるはず。





赤ちゃんが日に何回も眠るのは、  
疲れたお母さんを休ませるため。  
眠っている間に  
ゆっくり休めばいいんです。  
そしたらまた頑張れるから…



1才のころ

あなたに  
早く歩くことを望んでいたのに  
歩きだしたら  
しんどいと言う。  
大人は本当に自分勝手。



そんなに  
怒らなくてもいいんじゃない？  
それが良い事が悪い事が  
わからずにしてるんだから。  
怒らずに  
教えることが先じゃない？





2才のころ

少しずつ外に出るようになって  
成長したように見えるけど  
それは頑張って見えはてるだけ。  
まだまだ家では甘えさせてあげて。



子どものことと迷った時は  
自分も子どもになってみる。



それぞだいたい答えは出るはず。



3才のころ

遊んだ数だけ  
脳みそは増える。  
そしてそれは今だけ。



お友達と遊ぶようになって  
ケンカすることもあるでしょう。  
でもその中で  
“ごめんなさい”を覚えます。





4才のころ



ちょっと考え方を換えれば  
その子はあなたを  
自分の親として選んでくれたんです。  
そのことに  
恩返しする気持ちで  
子どもと接してみては？





普通に育てる。  
簡単なようでとても難しい。

イ  
ヨ  
イ



5才のころ

親があいさつをしていないと  
子どももあいさつを覚えない。  
あいさつの出来ない大人に  
ろくな大人はいない。



青は男色

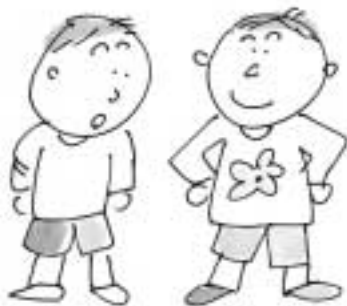
赤は女色

そんな決まりはどこにもない。

その子がそれでいいのなら

それはそれでいいんです。

親が子どもを染めなくて。



いろいろ書きましたが  
私が一番感じていること。  
私が一番伝えたかったこと。  
過保護でもなく 放任でもなく  
子どもを“ふつう”に育て下さい。  
すごく簡単そうですが  
とても難しいことです。  
でもそれが  
きっと子どもを幸せにします。  
お母さん、お父さん。  
“ガンバレ！”  
最後まで読んで下さりありがとうございました。

この本を出すにあたって  
いつも笑顔で応援してくれた  
飛鳥出版の方々に心より感謝いたします。

はまだ まさよ